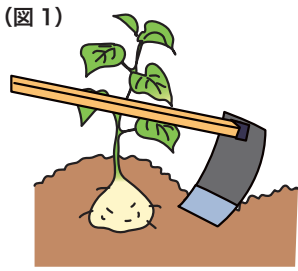




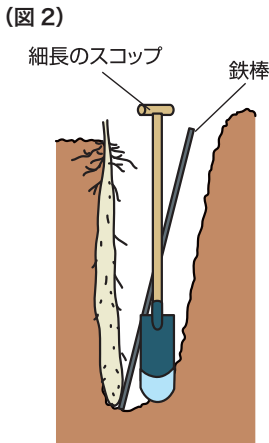
ヤマイモの
収穫適期と
掘り取りのコツ、
蓄え方

夏から秋にかけて盛んにつるを茂らせてきたナガイモやイチョウイモ、ジネンジョなどは、晩秋になり寒風が吹き始めると、茎葉は黄変し、やがて枯死します。掘り取りはこのような状況をよく見極めて判断することが大切です。

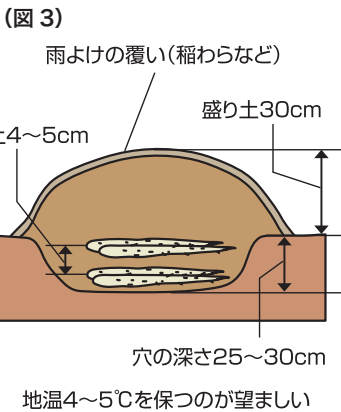
①掘り取る適期
ナガイモは葉がすっかり黄変し、全体が枯れ始めた状態になったときです。緑の葉が残っている頃に、早く掘り過ぎると、芋をすりおろした際に褐変しやすくなってしまいます。イチョウイモは低温に弱いので、葉が黄変、枯れ始めたなら早めに掘り取りましょう(図1)。



イチョウイモの葉が枯れ始めたなら早めに掘る



ナガイモは折れやすいので丁寧に掘る



地温4~5℃を保つのが望ましい

図3

ジネンジョは葉が黄変、枯死してしまつてからでもよいです。

②掘り取り日
できるだけ晴天続きを見計らつて行うことです。雨後で畑が過湿状態のときに掘ると、貯蔵中の腐敗が起こりやすくなります。ナガイモは根を地中深く形成しており、深い所は地温が下がりにくいので、低温害を受けにくく、天候を見て掘り取り日を決めるゆとりがあるので、作業には好都合です。

③掘り取り作業の手順

つるを芋の首の上5~6cmの所で刈り取り、茎葉を片付けてから掘り取りにかかります。ナガイモは組織が柔弱で、折れたり傷つきやすいので、株の周り30cmぐらい離れた所からスコップを立てるようにして少しずつ慎重に掘り進みます。そして芋の先端を見極め、それより少し深い位置まで、十分注意して土を取り除き、芋を傷つけないよう丁寧に掘り上げます。(図2)の

ように幅の狭いスコップや鉄棒などを用いると上手に掘ることができ

④掘り取り後の扱い方

直射日光や強風に当てないよう土や覆いを掛けて、肌を乾かさないうよう畑から持ち出します。少量の芋を短期間保存するには新聞紙にくるんで、冷暗所に置くだけでよいです。たくさん取れた場合には、排水の良い場所を選び、(図3)のように深さ25~30cmほどの穴を掘つて芋を並べて埋め、雨がたまりにくいよう土を盛り上げて覆いま

す。貯蔵の好適条件は温度4~5℃、湿度85~90%とされています。低温貯蔵庫でこの条件に設定、制御すれば長期間品質を保つことができます。

条件の良い畑では、地中で休眠状態に入った芋を、畑でそのまま掘り取らずに保存することも可能です。

肥料・農薬のご紹介

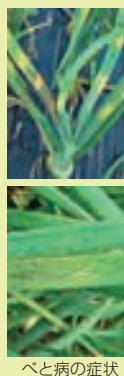
たまねぎのべと病に

ベトファイター

顆粒水剤 100g入



たまねぎの植付は終わりましたか? たまねぎ栽培にご注意すべきは、べと病です。べと病は、予防が大切です。定期的な防除を心がけましょう!
特に天気の悪い日が続くときは要注意!



毎年、べと病・疫病に悩まされている方はぜひ一度、お試しください。

■主な特徴

- ①長い効き目と高い予防効果で、持続的にべと病の発病を抑えます。
 - ②病気の発病に散布しても治療的な効果を発揮し、進行を抑えます。
 - ③優れた浸達・移行性があり、散布ムラに強い。
- 予防効果だけでなく、発生初期段階での治療効果も持ちあわせているため、便利な農薬です。
- 使用される際は、展着剤を合わせて使うと効果が安定します。
- 登録内容等をご確認の上、ご使用ください。